

『紅樓夢』と「紅学」：国際文化交流の掛け橋を

張慶善

水本圭亮/訳

連綿と続く中日両国の文化交流史上、非常に重要な役割を担っているものは中国古典小説の最高峰である『紅樓夢』であろう。史書によれば、清の乾隆五十八年（1793年）十一月二十三日、南京の王開泰が所有する商船「寅貳号」が乍浦港

（訳者注：現在の浙江省嘉興市平湖市に位置する）から出港し、十二月九日に長崎に到着したとある。「寅貳号」は六十七種の書籍を積んでおり、そこには九巻本『紅樓夢』が十八組含まれていた。これが今までのところ『紅樓夢』が世界へ広がっていったことを示す最も古い記述である。また、日本がその最初の到着地点であったことが分かる。程甲本『紅樓夢』が乾隆五十六年（1791年）に出版されてからまだわずか二年のできごとであり、中日両国の文化交流史においてもまぎれもなく大きな意義をもつ出来事であった。

また、今を遡ること百年あまり前、元高崎藩藩主であった大河内輝声は漢学的教養による中国文学愛好者であり、清の駐日公使であった何如璋に『紅樓夢』の点を打ってもらっただけでなく、何如璋に同行していた參贊（訳者注：現代でいう書記官）の黄遵憲と『紅樓夢』についての筆談を交わしていた。この筆

談記録こそがかかる有名な『黄遵憲与日本友人筆談遺稿』である。黄遵憲は中国清代を代表する愛国詩人であり、『紅樓夢』について「天地開闢の太古から今に至るまで、日月と輝きを争うまでによい小説であり、万古不朽のものである」と高く評価をしていた。同時に、感に堪えずといった様子で大河内輝声に「あなたの國の人々は中国語が分からず、『紅樓夢』の妙を味わい尽くせないことが残念である」とも語っていた。この『筆談』から百余年、世界中で様々な翻訳版『紅樓夢』が出版されている。なかでも日本の翻訳は数も多く、松枝茂夫訳『紅樓夢』、伊藤漱平訳『紅樓夢』はどちらも著名な漢学者の手による翻訳であり、中日両国の学術界・文化界から大いに名声を博すこととなった。1981年4月24日から5月14日にかけて、この素晴らしい翻訳を成し遂げた松枝・伊藤両名が中国を訪問し、北京にて中国の紅樓夢研究者たちと存分に『紅樓夢』を語り合ったことは往事の美談として語り継がれている。

古典と呼ばれるほどに偉大な文学作品は国、民族を紹介してみせる窓口であり、また素晴らしい文化大使でもある。古典的名作が異なる国家、そして民族の文化交流に及ぼす影響力というものは計

亚洲文化 Asian Culture

り知れないものがある。

古典的名作の伝播が文化交流にもたらす影響といえば、とある興味深い一件を思い出す。十数年前のことであったが、私がデンマークの首都であるコペンハーゲンにて中欧文化フォーラムに参加した時のことである。フォーラムの最中からフォーラム終了後にいたるまで、中国人研究者がみせるアンデルセンや人魚姫についての造詣の深さや関心の強さといったものはデンマークの人たちからすると随分と印象深かったようである。あるデンマーク人などは「なぜ中国人はここまでアンデルセンに詳しいのか、我々デンマーク人より詳しいのではないか」と言うほどであった。これに対して、私は「デンマーク人より詳しいと言えないものの、中国人は確かにアンデルセンのことをよく知っている。というのも、中国ではアンデルセンは童話作家として名を馳せているからだ」と応じたものだ。実際、百年前も前から中国の翻訳家がアンデルセンの作品を中国に紹介している。以来、長きにわたりアンデルセン童話は中国の子供たちにとっての古典的読み物となり、「みにくいアヒルの子」「マッチ売りの少女」「親指姫」などの童話は誰もが知っている作品となつた。多くの人は、特に子供たちはまさにアンデルセン童話を通じてデンマークを知り、そしてヨーロッパ文化を知ったのである。ホメロス、ダンテ、ボッカッチヨ、シェークスピア、セルバンテス、バルザック、ヴィクトル・ユーゴー、ゲーテ、スタンダール、プーシキン、トルストイなどといった巨匠の古典は中国の読者にとってヨーロッパの文学世界へつな

がる黄金の架け橋であった。

『红楼夢』は中華民族にとってまぎれもなく最大の古典文学作品であり、中国文学史・文化史において極めて高い地位を与えられるものである。その言葉使いの優美さ、構成の妙、感動的なストーリー、生き生きと真に迫るキャラクター、深く豊かな文化的教養といったものは、中華民族の多彩さを見せてくれる絵巻物である。『红楼夢』とは素晴らしい芸術の宮殿であり、ひとたび『红楼夢』という芸術の門を開けば、中国を理解し、中国を読み解くことができるだろう。なればこそ、『红楼夢』および红楼夢研究は国際的文化交流の架け橋となることができるだろうというだけでなく、そうなるべき存在なのである。

民族間・国家間をつなぐ文化交流の架け橋となりうるのは、いかなる古典的名作であるか。これはその作品そのものがもつ本質的特徴にかかっている。つまり、内容の多様性、深く豊かな思想性、高度に成熟した芸術性、そして地理的・人種的・民族的な違いを超越した普遍的な価値である。『红楼夢』をはじめとする古典文学の名作は、まさしく人類の英知の結晶ともいえる世界的文学なのである。

国家間・民族間で文化的な差異があるのは当然であるが、文化には共通性があり、これこそ古典的名作が時空を超越する基盤なのである。文化の共通性は、まず人間に共通する关心事に見られる。自由な結婚と愛、平和への願い、災害への恐怖、幸福への思い、つまり、真・善・美を追求し、偽・悪・醜を忌み嫌うのはいかなる社会や国の人々もみな同様なの

・卷頭言

である。とりわけ、人間は自己の複雑な人間性にまつわる問題を抱えており、これはあらゆる世代の芸術作品において絶えることなく探求され続けてきた問題であった。

生活、社会、そして人生にかかわる名作は人間の本質を深くえぐり出す。それだけでなく、人間の本質についての目覚めを根本から明らかにし、またそれを促すものであるに違いない。作家の白先勇氏は、『紅樓夢』は民族の魂が最も色濃く投影された作品であると述べている。また、紅樓夢研究者である蒋和森氏は、『紅樓夢』は人類の叫びであり、また魂の呼び声だと指摘している。古典的名作と賞賛される文学作品はいずれも社会や人生の問題といった普遍的なものを深く反映しており、そして普遍的な価値をもち、人類にとって思想の神髄・文化の結晶であるがゆえに、民族や地域を越えて広がっていくことができたのである。これこそ、文学作品が古典的名作たりえる根本的な理由である。

もちろん、『紅樓夢』の不滅性や偉大さを真に認識することは容易ではない。多くの外国人が『紅樓夢』を読もうとする時、文化的な差異、慣れぬ人には見ただに恐れを抱くであろう漢字の存在、そして『紅樓夢』の膨大な内容と独特的芸術的表现といったことのせいで、まるでヒマラヤ山脈の麓に立っているような、ちょうど憧れの高みを前にしり込みをす

るほど戸惑ってしまう、あの感覚に陥るのである。『紅樓夢』が世界へと広がっていく道のりは平坦なものではなかった。『紅樓夢』を様々な言語へと翻訳し、世界中へ普及させるのに大きな貢献を果たしたのは『紅樓夢』という芸術のいただきへと挑んでいった数々の翻訳家たち、そして彼らの勇気と忍耐、知恵である。我々はそうした翻訳家たちに心からの敬意を表するものである。

しかしながら、『紅樓夢』普及の道のりという点からすると、ただ言語的な意味での翻訳だけに頼っていては不十分である。中国の文化大使たる『紅樓夢』の世界的な普及は、海外での中国学および紅樓夢研究の進展と共にがあるのである。海外の読者はまず翻訳によって、そして研究者の紅樓夢研究の成果によって『紅樓夢』を理解しようとするのである。つまり、中国文化についての理解がなければ、紅樓夢研究についての知識がなければ、『紅樓夢』を翻訳する翻訳者自身にしても、『紅樓夢』を読もうとする読者にしても、大きな壁にぶつかり、本当の意味で『紅樓夢』を読み解くことはできないだろう。だからこそ、文化交流を強化し、偉大な文学作品が中国と海外とをつなぐ文化交流の架け橋となるようにしなければならないのである。

(勤務先：中国芸術研究院、中国紅樓夢学会会長；訳者：浙江越秀外国语学院)

《红楼梦》与红学：为国际文化交流搭起桥梁

张庆善

在源远流长的中日两国文化交流史上，中国最伟大的古典小说《红楼梦》扮演了十分重要的角色。据记载，清乾隆五十八年（1793）十一月二十三日，南京王开泰的“寅貳号”船，由中国乍浦启航，于十二月九日抵达日本长崎。这艘船上载着六十七种书，其中有《红楼梦》九部十八套。这是迄今为止，《红楼梦》走向世界的最早记载，也就是说《红楼梦》走向世界的第一站是日本。这时据《红楼梦》程甲本问世仅仅两年，这在中日两国文化交流史上无疑是一件具有深远意义的大事。

而距今一百多年前，日本有一位叫大河内辉声的学者非常喜欢中国文学，曾请求清政府驻日公使何如璋为他标点《红楼梦》，他还经常同公使馆参赞黄遵宪谈论《红楼梦》，他们的谈话都做了笔记，这就是有名的《黄遵宪与日本友人笔谈遗稿》。黄遵宪是中国清代著名的爱国诗人，他曾高度评价《红楼梦》“乃开天辟地，从古至今第一部好小说，当与日月争辉，万古不磨者”。同时他又不胜感慨地对大河内辉生说：“恨贵邦人不通中语，不能尽得其妙也。”从“笔谈”至今一百多年来，各种《红楼梦》译本已经遍布全世界，其中日文译本也有很多种，而著名汉学家松枝茂夫、伊藤漱平的日译本《红楼梦》更是享誉中日两国学术界、文化界。1981年4月24日至5月

14日，两位大翻译家访问中国，在北京与中国红学家见面，畅谈《红楼梦》，成为传颂一时的美谈。

一部伟大的文学经典，就是展示一个国家一个民族的窗口，就是一个伟大的文化使者。伟大的文学经典在不同国家和民族的文化交流中所起的作用是不可估量的。

说到文学经典的传播对文化交流所起的作用，我想起一件有趣的往事。大约十多年前，我到丹麦的首都哥本哈根参加中欧文化论坛，会上会下中国学者对安徒生的熟悉，对小美人鱼的兴趣，给丹麦朋友留下十分深刻的印象。一位丹麦朋友对我说，中国人怎么对安徒生这么熟悉？似乎比丹麦人还熟悉。我对他说，不能说中国人比丹麦人还熟悉安徒生，但中国人确实十分熟悉安徒生，因为安徒生在中国是家喻户晓的童话作家。早在一百年前中国的翻译家就把安徒生的作品介绍到中国，多少年来，安徒生童话已经成为中国少年儿童的阅读经典，几乎没有人不知道《丑小鸭》《卖火柴的小女孩》《拇指姑娘》《白雪公主》等等童话故事。许多人、特别是少年儿童正是通过安徒生童话而知道了丹麦、知道了欧洲文化。荷马、但丁、薄伽丘、莎士比亚、塞万提斯、巴尔扎克、雨果、歌德、司汤达、普希金、托尔

斯泰等等文学大师的经典之作为中国读者走进欧洲的文学世界搭起了金色的桥梁。

《红楼梦》毫无疑问是中华民族最伟大的古典文学作品，在中国文学史和文化史上具有极高的地位。它优美的语言、神奇的结构、动人的故事、栩栩如生的人物形象、博大精深的文化内涵，为世人展示了一幅丰富多彩的中华民族的社会风俗画卷。《红楼梦》就是一座神奇的艺术宫殿，打开了《红楼梦》艺术的大门，你就会进一步了解中国、读懂中国。因此《红楼梦》及其红学不仅应该而且一定会成为沟通中外文化交流的桥梁。

任何一部伟大的文学经典之所以能成为沟通各民族各国家文化交流的桥梁，是由于文学经典的本质特征决定的，这就是它具有内容的丰富性、思想的深刻性、艺术上的高度成熟，以及超越地域、种族、族群的普适性价值。伟大的文学经典如《红楼梦》，是真正意义上的世界性文学，是人类智慧的结晶。

当然，不同国家、不同民族的文化是有差异性的，但文化又有其共同性，这种共通性就是文学经典能够超越时空的基础。文化的共同性，首先表现在人类的共同关注上。无论任何社会、任何国家的人民，对男女自由婚姻与爱情的争取，对和平的期盼，对灾难的恐惧，对幸福的向往，总之对真善美的追求，对假恶丑的憎恶，都是相同的。尤其人类所关心的自身的复杂的人性问题，更是历代精神产品都在不断探索的问题。

一部关注生命、关注社会、关注人生的经典文学，必然对人性有着深刻的揭示，对人性的觉醒有深刻的揭示和促进。著名作家白先勇说《红楼梦》是对民族心灵最深刻的投射。著名红学家蒋和森说

《红楼梦》是人间的啼痕，心灵的呼唤。称得上伟大的文学经典，无不是深刻地反映人类普遍关注的社会人生问题，并且是承载了普适性价值，是人类思想的精华和文明的结晶，因而是超越民族、地域而能得以传播，这是根本原因。

当然，真正能认识《红楼梦》的不朽和伟大，也不是那么容易。文化的差异，令人望而生畏的方块字，特别是《红楼梦》丰富的内容和独特的艺术表现方式，都使得许多外国朋友面对着《红楼梦》，就如同站在喜马拉雅峰脚下，面对着巍峨的高峰充满了敬仰、迷惑以至于望而却步。《红楼梦》走向世界，经历了艰难的历程。在《红楼梦》走向世界的历程中，多少勇于攀登《红楼梦》艺术高峰的翻译家，以他们的勇气、毅力和智慧，把《红楼梦》翻译成各种语言，为《红楼梦》的世界性传播做出了重要的贡献，我们应该向他们表达由衷的敬意。

但从《红楼梦》传播的历程看，仅仅靠语言文字的翻译《红楼梦》，还是不够的。《红楼梦》作为中华文化的使者，在世界传播，是伴随着国外汉学和红学的发展而进行的。国外读者对《红楼梦》的了解，一是靠译本，二是靠学者的研究成果即红学。无论是翻译者本身，还是阅读者，如果不对中华文化有更多的了解，不对红学有更多的了解，不管是翻译《红楼梦》，还是阅读《红楼梦》，你都会遇到巨大的障碍，就不可能真正读懂《红楼梦》。正因为这样，我们要加强中外文化交流，让伟大的文学经典成为中外文化交流的桥梁。

（作者单位：中国艺术研究院、中国红楼梦学会会长）